

(3) 日常の食事状況

名古屋女大生研 ○酒井映子 内島幸江 平野年秋 南 広子 八田耕吉 *

目的 中国貴州省西南部の苗族と布依族の食文化を明らかにすることを目的として、日常の食事状況から民族間の比較検討を行った。

方法 調査対象は苗族18名、布依族21名の合計39名である。食事状況調査は24時間思い出し法を用いて食事毎に摂取した食品とその概量、調理方法などの項目を面接聞き取り法によって行った。栄養価の算定には中国科学院衛生研究所の中国食品成分表を用いた。

結果 ①料理数の一日平均は苗族8.6品、布依族10.0品と布依族に多い傾向がみられた。

②食品数の一日平均(品目数)は苗族11.8品、布依族14.1品であり、料理一品当たりで使用される食品の種類数についても布依族がやや多くなっていた。布依族では日常食に使用されていた牛、鶏、卵およびナッツ類が苗族では出現していなかった。摂取食品数の食品群別構成比をみると苗族では豆・肉・卵類が9%、野菜類が37%に対して布依族はそれぞれ19%と30%を占めていた。③日常食の栄養摂取状況について栄養比率からみると穀類エネルギー比が80%以上のものは苗族に多く、動物性たん白質比が20%以上のものは布依族に多く分布していた。PFC比はたん白質エネルギー比12%、脂質エネルギー比13~14%、糖質エネルギー比74~75%を示し、いずれの民族も糖質エネルギー比が高く、たん白質エネルギー比および脂質エネルギー比が低いことが認められた。④食品群別摂取栄養比率をみると、たん白質では穀類から苗族が71.5%、布依族が86.3%、豆・肉・卵類から苗族が18.8%、布依族が24.4%摂取しており、苗族では穀類からのたん白質依存度が布依族よりもやや高く、食品群別摂取構成比率には両民族間に差異がみられた。

* 末田香里、中国科学院昆明植物研究所 胡国文 龍春林 謝立山